

経営比較分析表（令和4年度決算）

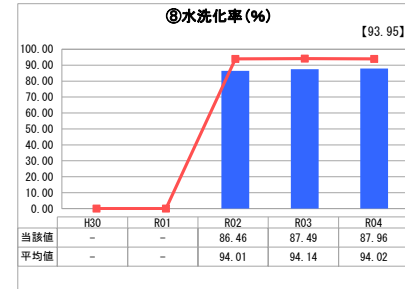
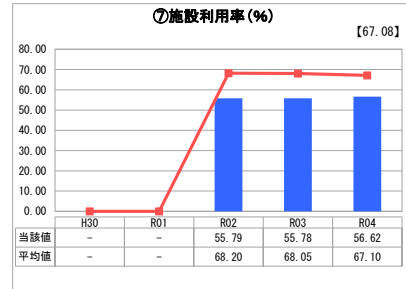
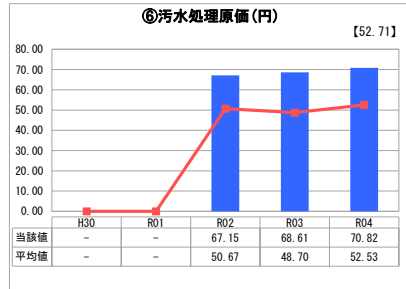
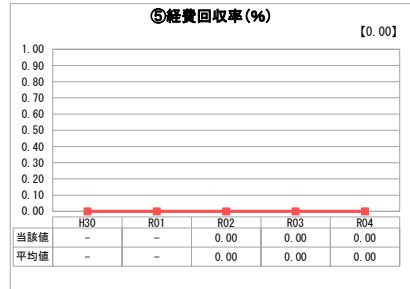
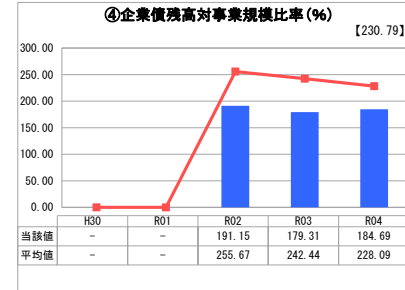
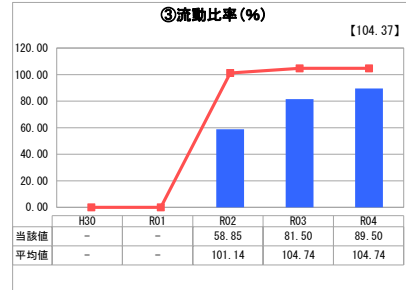
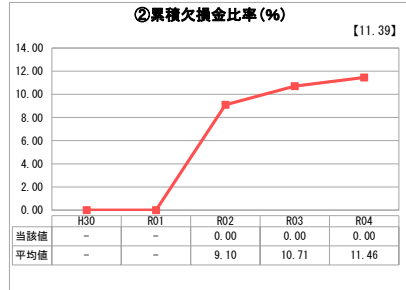
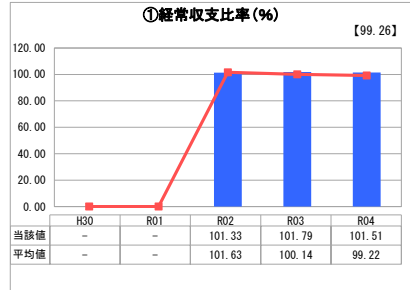
群馬県

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	流域下水道	E1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	85.13	39.18	90.99	0

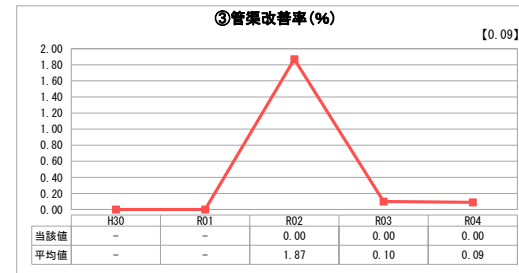
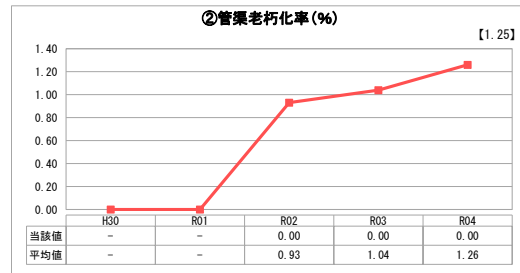
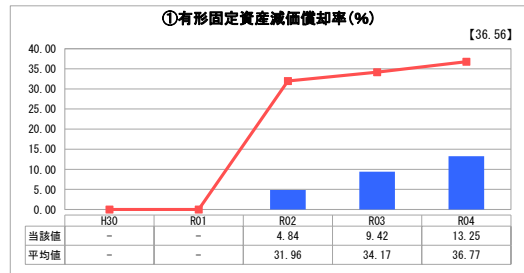
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,930,976	6,362.28	303.50
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
685,289	194.85	3,517.01

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は100%を上回っており、② 累積欠損金も生じていない。
- ③ 流動比率については、100%を下回っているが、企業債の償還に充てる財源が4月に収入となること が要因である。
- ④ 企業債残高対事業規模比率は、類似団体と比較すると下回っている。建設が一段落したことから、今後も軽微な増減で推移する見込みである。
- ⑥ 汚水処理原価については、一部処理区を除きスケールメリットが得にくい接続率であること等により投資効率が悪いため、類似団体と比較すると高くなっている。また、⑦ 施設利用率については類似団体よりも低い状況にある。これは主に一部処理区において、供用開始からそれほど年数を経ておらず、市町村が実施する公共下水道の整備がすべて終わっていないことや接続率が低い状況にあることが要因と考えられる。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率については、公営企業会計へ移行して間もないことから低い数値となっている。
- ② 管渠老朽化率及び③ 管渠改善率については、管渠の更新時期が到来していないため、低い数値となっている。

全体総括

- ・各経営指標の状況から経営はおおむね健全である。
- ・経営面の問題としては、公共下水道整備が完了していないこと及び接続率の低さがあり、それが各数値に影響を与えていると考えられる。行政部門との連携を図り、関係市町村の公共下水道整備を促進することで接続率の向上につなげて有収水量を増加させる必要がある。
- ・管渠については、将来の更新時期の到来を見据え長寿命化計画により更新事業費の平準化を図っていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。